

平成29年度後期学校関係者評価書

南アルプス市立八田中学校

<学校関係者評価委員>

室田 直樹 (学識経験者、元小学校長)
大堀 俊介 (平成29年度八田小学校PTA会長)
細川 真一 (平成29年度八田小学校PTA副会長)
大芝めぐ美 (平成29年度八田小学校PTA副会長)
小澤 昌史 (平成29年度八田中学校PTA会長)
川村 淳子 (平成29年度八田中学校PTA副会長)
小林みゆき (平成29年度八田中学校PTA副会長)
杉山真奈美 (平成29年度八田中学校PTA副会長)

1 質疑応答・意見交換

(1) 教室で落ち着いていられない児童が増えている状況について

- 最近、教室で落ち着いて座っていることのできない児童が増えていると聞くが、八田小の状況はどうか、という質問が出された。
- ・小学校では先生がマンツーマンで指導することにより、徐々に教室にいられるようになってきている。また、1年生においては、当初教室から出てしまう児童があったが、運動会後には落ち着きが見られ、今ではほとんど教室で過ごすことができるようになってきている、とのことだった。

(2) 学校からの情報発信について

- 中学校の保護者アンケートの意見で、「学校は小中一貫をうたっているが“型”になっていない」というものがあった。このように、学校の内部では小中一貫教育を進めているつもりでも、外部の人たちからは見えていない現状がある。そこで、こうした情報をいかに見える化していくか、ということで、八田中では様々な情報をメール発信していこうと考えている。こうした取組についてどのように考えるかお聞きしたい、と中学校より投げかけがあった。
- ・このことについて、一つ目に、毎日たくさんの情報が送られてくる場合、大事な情報も見逃してしまう恐れがある、との意見が出された。
- ・学校のホームページを使い情報発信すれば、見たい時に見ることができる。主体的に見るので情報は伝わる。
- ・上記の意見に対して、ホームページも一つの方法だが、一人一人に情報を伝える目的を考えると、見たい人だけが見るという仕組みでは、全家庭に伝わらない。なので、メールにより各家庭に情報発信することも必要である、という意見が出された。
- ・他に、現在行っている小中一貫教育に関する情報を、小中別々に発信するのではなく、小中で相談して共同して発信していくことで、小中一貫教育ということが保護者に理解されていくのでは、という意見が出された。

(3) 小中の生徒の連携について

○中学校の新人戦の時に、陸上部の生徒が八田小に来て児童に陸上の指導をしてきている。これは、児童にとってとても刺激となり、大きな効果となっていると思う。また、合唱においても小学校の合唱交流会に中学3年生が来て素晴らしい合唱を披露し、中学校3年間の成長のすごさを実感している。中学生には負担になるかもしれないが、今後夏休みなどを使い、学習面で小学生の指導をしていただけたらありがたい。小学校でも先生が夏休みに児童に個別指導をしているが、中学生に手伝ってもらうことでさらに連携が深まりお互いに刺激になるのではないかと、この投げかけが小学校より出された。

- ・このことについて、陸上の指導を小学生に行うことで、中学生にとって誇りや自信につながっている、という意見が出された。

(4) 地域人材の活用について

○地域人材の活用ということについて、八田地区ではどのようなことができるか、学校応援団という視点からも考えていきたい、との意見が出された。

- ・どのようなことができるかというより、こういうことをしてくれる人を紹介してほしい、こんな仕事をしてくれる人をお願いしたい、と言ってくれると人材を探すのに動きやすい。しかしながら、小学校の授業には今までもこれからも入りやすいが、中学校となるとなかなか入りづらい現状がある。また、相談しながら進めていきたい、とのことだった。
- ・また、現在ある地域人材の名簿は古く、あまり使えないので、新しく作り直す必要がある、という意見も出された。

(5) スマホやゲームのルールやガイドラインについて

○中学校の保護者アンケートの意見で、「スマホやゲームのルールやガイドラインを学校が示してほしい」ということがあった。このことについて意見を交わした。

- ・学校では、各家庭でルール作りをしてほしい、とお願いしているが、保護者の立場からすると、基準がないと決めづらく、ずるずると流されてしまう現状がある。やはり、何らかのルールが示されるといい、との意見が出された。
- ・他の保護者からは、家庭ごとに生活が違い9時以降に連絡が必要な場合もあり、一概にルールを設けることはできないのではないかと、とする意見も出された。
- ・とあるPTAの取組で、9時以降子供にスマホを使用させないというルールを作った例があり、そのことにより夜ラインが来ないのでスマホに時間がとられなくて気持ちが悪くなり良かった、という話が出された。
- ・県のPTAが主催するパネルディスカッションが、今年度甲府で行われたことが話された。中学生や小学生、保護者、教師がステージにあがり、進行役の方がスマホのトラブル等について質問し話し合いが進められた。中学校においても、スマホ等の使い方について、講演会など学習会を開催していただきたい、とのことだった。
- ・八田地区の子どもは、スマホ等を使う時間が他地区と比べて長く、逆に学習時間が短いというアンケート結果が出ている、との話も出された。

- ・小学校では、スマホを持っている5年生までの全家庭でルールが決められている、というアンケート結果が出ている、とのことだった。
- ・近年は、中学校の部活動の連絡にスマホのラインが使われているようだ。中学校に入学したらスマホが必要になるのか、という質問も出された。これに対し、まず、先生がラインで部活動の情報を流すことはなく、用紙での連絡が多いことを告げた。また、教師と生徒や保護者とが直接ラインで繋がることもトラブルのもととなるので、学校ではないことも話された。
- ・子供にスマホを持たせていない中学校の保護者からは、スマホがなくても中学校生活で支障がないことが話された。
- ・そのほかに、スマホやゲームのルールについて、統一した基本的なルールを作り、そのうえで家庭独自のものを作っていけばいいのでは、との意見が出された。
- ・最後に、ルール作りは家庭でやるべきことだが、何らかのよりどころがあるといいのでは、との意見が出された。

(6) 教科の課題等をインターネットで調べることについて

- 家庭で子供から問題を聞かれたときに、「ネットで調べなさい」と言ってしまっているが、それでいいのか、との質問が出された。
- ・学校では辞書で調べることも大事にしているが、総合的な学習の時間などで様々なことを調べる時にインターネット利用することも多い。一つの方法としてそういう方法も必要である、という考えが出された。
- ・例として、数学では、よく考えることがまず必要で、そのうえで自分自身で答えを出すことが大切である。間違っていたときには、どの部分がなぜ間違ったかを調べることが大事で、その際にインターネットで調べることもいい、という意見も出された。

2 その他

(1) 来年度の方向性について

- ・八田地区は小中合同で学校関係者評価委員会を行っている。来年度の評議員については、小中一貫教育に向けて市と相談しながら「コミュニティースクール」という方向に動いていこうと考えている。その中の一つの部署として、評価委員会を設けたいと考えている、と学校より話がされた。